

書 評

『後遺障害の認定と異議申立』

—むち打ち損傷事案を中心として—第2集

加藤久道 著

2020年9月に保険毎日新聞社より刊行された本書は、2018年1月に出版された保険評論家加藤久道氏の著書である『後遺障害の認定と異議申立—むち打ち損傷事案を中心として—』の改訂版に当たるものであるが、初版の判例紹介や異議申立の参考事例、関係書式などの内容が今後も有用であることから、初

版を第1集として併存させるとともに、内容の大幅な刷新が行われた本書を第2集として発刊したものである。

既に初版の書評の中で紹介させていただいたが、著者の加藤氏は、日本損害保険協会医研センター部長代理を務められた後、損害保険相談・紛争解決サポートセンターで損害保険に関する消費

者の相談や紛争解決の業務に携われ、豊富な実務経験を積まれた損害保険の専門家である。本書は、「実用に役立つ参考書」という基本的視点から、むち打ち損傷事案を中心とした後遺障害に関する認定基準等を検討し、後遺障害を理解する上で必要な事項などについて解説を行ったものである。

初版を大幅刷新、実務に役立つ手掛かり・指針提供

本書は、初版の第1集と同様、第1章「基礎知識」、第2章「判例紹介」、第3章「異議申立」から構成されているが、各章の内容については大幅な刷新が行われた。

まず、第1章の「基礎知識」では、後遺障害と

傷害の定義を手掛かりに、ごく一般的な説明にとどめていたが、本書は、裁判官の講演録において示された症状固定についての具体的な解釈のほか、症状固定の有無が争われた裁判例の内容を詳しく紹介した上で、具体的な症状固定の判断基準等について検討を行っている。治療を受けて症状固定となったか、いつ症状固定があったと見るべきかといった症状固定

・精神の後遺障害に関する解説も全面的に改定されている。神経・精神の障害は、脳の器質的損傷による器質性の障害である高次脳機能障害(器質性精神障害)と身体性機能障害(神経系統の障害)・器質的損傷による局所の神経症状など、多岐に及ぶものであるが、第1集では、施行令別表第一および第二の内容を紹介するにとどまっていたが、本書は、脳

【評者】
潘 阿憲 (法政大学法学部教授、法学博士)

について説明が加えられているが、本書は、随所に第1集の内容を大幅に改定し、充実させた。例えば、後遺障害の判断の前提となる症状固定の意義については、第1集では、保険約款上の

いたが、本書は、脳障害に関しては、高次脳機能障害の特徴およびその医学的判断、障害認定の基準、自賠責保険における高次脳機能障害の等級認定などについて、また、身体性機能障害につ

いては、麻痺による障害の認定と等級認定などについて詳しく解説した上で、脊髄の構造と脊髄障害の特徴、脊髄障害の認定要件と等級認定、末梢神経障害に関しては、その認定要件と等級認定、局所の神経症状などについて、詳しく検討を行っている。障害認定実務に値するものである。さらに、第1集では、

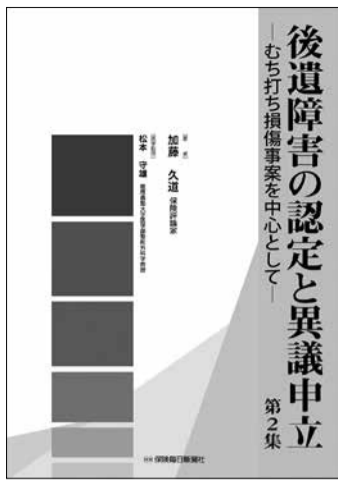
条項であり、障害または疾病の影響により障害が重大となる場合などについて規定が既存障害・疾病条項(いわゆる限定支払条項)であるが、前者は自賠責保険においても存在しており、加重障害の具体的な判断基準や支払割合の認定方法など、実務的に非常に困難を伴うものが多い。本書は、損保3社の傷害保険約款および人傷保険約款における加重障害条項を比較参照しながら、加重障害に関する各論点を詳細に検討しており、また、既存障害・疾病条項に基づく割合的認定の方法についても、若杉方式および渡辺方式の寄与度判定基準や、割合的認定が問題となった裁判例などを詳しく紹介し、分析している。加重障害条項と限定支払条項は、損保・共済の日々の保険金支払実務において用いられているものであるが、本書は、実務上の取り扱いに重要な指針を与えるものとして大いに参考となる。

次に、本書の第2章「判例紹介」では、後遺障害が争点となった10個の裁判例を取り上げ、各事例について後遺障害認定の事由や等級認定、関連する問題点を検討している。このうち、頭部から左上腕にかけての神経障害に関する事例や、頸部および腰部の残存障害に関する事例などを含む

9個の神経障害に関する事例は、新たに取り上げられたものであり、近時の裁判実務における神経障害認定の流れを知る上で貴重な資料である。

第1集の場合と同様、本書第2章の最大の特徴は、判例の解説に際し、医学的事項について、慶應義塾大学医学部整形外科学教授松本守雄氏の監修を受けていることである。後遺障害の問題は、医学的検討が必要不可欠であるが、本章は、医学者の監修を得ることによって医学的に裏づけられた解説となっており、それにより主張および判断の問題点もより明確となったといえる。

最後に、第3章「異議申立」は、保険契約の被害者または交通事故の被害者から後遺障害認定に異議がある場合の申立について、その方法や認否の事由などを検討したものである。第1集では、基本的事項に加えて、著者が独自に作成したオリジナルの参考事例に基づいて解説を行ったが、本書の第2集では、意義申立参考事例として、自賠責保険・共済紛争処理事例集編集委員会編『自賠責保険・共済紛争処理事例集』の中から、神経障害に関する10個の事例を選択し、詳細な解説が加えられている。交通事故等によって生じる後遺障害は、いろいろな種類および程度の



(B5判)372頁、
保険毎日新聞社刊、20年
9月26日発行、本体価格
3800円(税別)